

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 20(R元. 10. 4発行)文責 校長 福田雅也

見ているものが違う

「ウサギとカメの話」は皆さんご存知でしょう。簡単にいうと、足の速いウサギと足の遅いカメが競争して、ウサギは自分の足にうぬぼれて、途中でさぼってしまい、結果的に足の遅いカメが勝つという話です。

『日々、コツコツと努力しつづけることが大切』 『油断は禁物』
この話は、当然そのような教訓を伝える話なのでしょう。

しかし、この「ウサギとカメの話」の教訓を、次のように解釈している話を目にしました。
『ウサギはカメばかり見ていたが、カメは山頂のゴール(旗)を見ていた。』…見ているものが違うという解釈です。

このように解釈すると、教訓はどのようになるでしょう。「人との比較ではなく、目標に向かって努力し続けることが大切。」…解釈としては、こんな感じになるでしょうか。

私は特に、『人と比較して生きることの無意味さ』を強く感じる事ができ、共感できます。

ごく身近な問題に置きかえてみましょう！

「〇〇(兄弟姉妹の名前)はできているのに、なんであんたはできないの。」

「〇〇くんは算数で100点だったそうね。あなたはな一んね。」

子どもさんがこのような言葉を投げかけられたらどのように感じるでしょうか。親としては、子どもに頑張ってもらいたいとの願いで、発破をかける手っ取り早い言葉ですが、子どもにとっては、重くのしかかる言葉になってしまいます。

算数ができるというのは、その子にとっては一つの物差しです。他の何かができるというのと同様に、たった一つの物差しでしかないのです。そのように考えると、人間を見る物差しは「何かができること」以外にも、もっともっとたくさんあるはず。たった一つ、あるいはほんのいくつかの物差し、しかも「できる」「できない」という物差しで優れていると、兄弟姉妹やよその子と比べられてたのでは、うまくできない子はとてもきつい思いをするのではないのでしょうか。

それよりも、子どもたちの視線を回りの人ではなく、目標に向かわせ、努力することの大切さを伝えることのほうが、間違いなく良い結果につながるのではないかと思います。

偉そうなことを書いていますが、私自身の子育ての中で、このようなことがしっかりとできていたかと言うと、全く自信がありません。他人との比較はしていなかったと思いますが、今思えば、どちらかと言うと無関心だったように思います。(これは、もっと反省すべき事なのかもしれません…)ぜひ、保護者の皆さんには、私のような後悔はしていただきたくないと思っています。

ところで、この「ウサギとカメの話」にはこんな見方もあるそうです。

『カメさんは、なぜ寝ているウサギさんを起こさなかったの?』

はっとさせられる見方です。視点を変えれば、また異なる学びができそうな深い話です。